

卒業論文面接試問等について

(2012年度(2013年)3月卒業)

通信教育部

1. 面接の手順

- (1) 面接試問控室にて配布の資料(この文書)を読み、手順についての確認をする。
- (2) 事務担当者の指示に従い、試問教室に移動する。
- (3) 試問教室に入室し、「氏名」を担当教員に伝え、面接試問を受ける。
- (4) 面接が終了したら必ず控室に戻り、次の順番の学生に面接試問が終了した旨を伝える。
- (5) 面接試問は終了です。忘れ物のないようお帰り下さい。

〔注意〕

出席確認以降、お手洗い等で控室を離れる場合は、事務担当者へ伝えてください。

2. 面接時間

一人に費やす面接時間に決まりはありません。提出された論文の内容等により異なります。また、一概に長いから問題がある、短いから優秀ということでもありません。目安は30分程度です。

3. 結果の通知

卒業論文結果：3月上旬

卒業判定結果：3月中旬

4. 卒業論文が不合格になった場合

あらためて次回以降の卒業を目指し、卒業申請を行ってください。次回(2013年9月卒業)の卒業申請手続きについては、『法政通信3月号』に掲載します。

なお、文学部と経済学部の方は卒業論文指導に有効期限を設けています。詳細は以下のとおりです。

【文学部】今回と同様のテーマ・教員で卒業論文執筆を行う場合は、第1次指導の有効期限内(3年間)に限り、あらためて指導を受講し直す必要はありません。この場合、次回以降の卒業申請を行うことにより、卒業論文を提出することができます。第1次指導の有効期限内に卒業論文に合格できなかった場合は、第1次指導から受講し直す必要があります。有効期限内であっても、まったく別の卒業論文テーマ・教員に変更する場合には、第1次指導からやり直してください。

【経済学部】今回と同様のテーマ・教員で卒業論文執筆を行う場合は、計画書指導の有効期限内(2年間)に限り、あらためて指導を受講し直す必要はありません。この場合、次回以降の卒業申請を行うことにより、卒業論文を提出することができます。計画書指導の有効期限内に卒業論文に合格できなかった場合は、計画書指導から受講し直す必要があります。有効期限内であっても、まったく別の卒業論文テーマ・教員に変更する場合には、計画書指導からやり直してください。

※卒業申請等については、2013年度より制度変更をします。

詳細はホームページや『法政通信』をご参照ください。

以上